



(禁無断転載)

## 資格の大原

# 日商簿記検定 ネット試験模擬問題

2 級

(制限時間 : 90 分)

資格の大原 簿記講座

# 商 業 簿 記

## 第1問 (20点)

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 京都物産株式会社(決算年1回3月31日)は、X7年3月20日に15,000ドルの商品を掛にて輸入していたが、本日、X7年4月15日に取引銀行を通じて、この代金を普通預金より支払った。1ドルあたりの為替相場は、X7年3月20日が@¥117、X7年3月31日が@¥119、X7年4月15日が@¥115であり、為替予約等は行っていない。

ア. 当座預金      イ. 普通預金      ウ. 売掛金      エ. 買掛金  
オ. 売上          カ. 仕入          キ. 為替差損益

2. X7年8月7日、東京株式会社が発行する額面総額¥600,000の社債(利率年1.46%、利払日は3月および9月末日の年2回)を額面@¥100につき@¥99.8の裸相場で売買目的有価証券として買入れ、代金は直前の利払日の翌日から購入日までの端数利息(日割計算)とともに小切手を振出して支払った。1年を365日として計算する。

ア. 当座預金      イ. 売買目的有価証券      ウ. 満期保有目的債券      エ. 有価証券売却益  
オ. 有価証券売却損      カ. 有価証券利息      キ. 有価証券評価損益

3. 研究開発を行う目的で、材料¥300,000および機械装置¥1,500,000(他の目的で使用しない)を購入し、代金は小切手を振出して支払った。これに伴う支出は、すべて費用として処理する。

ア. 当座預金      イ. 材料      ウ. 仕掛品      エ. 機械装置  
オ. 開発費      カ. 研究開発費      キ. 減価償却費

4. 当社ではファイナンス・リース取引により機械装置(リース開始日:X7年4月1日、リース期間:8年、リース料支払日:3月31日、年額リース料:¥2,000,000、利子込み法にて処理済)を調達している。

X8年3月31日、第1回目のリース料支払いを当座預金から行った。また、決算につき機械装置の減価償却費をリース期間を耐用年数とする定額法(直接法、残存価額ゼロ)で計上した。(決算日:3月31日)

ア. 当座預金      イ. 機械装置      ウ. リース資産      エ. リース債務  
オ. 減価償却累計額      カ. 支払利息      キ. 減価償却費

5. 大原株式会社は備品を¥8,000,000で購入し、代金は翌月に支払うことにした。また、この備品について、期首に国から補助金¥3,000,000を受取っていたため、直接減額方式による圧縮記帳を併せて行った。

ア. 当座預金      イ. 備品      ウ. 建設仮勘定      エ. 未払金  
オ. 国庫補助金受贈益      カ. 減価償却費      キ. 固定資産圧縮損

## 第2問 (20点)

以下の資料にもとづき、各勘定の記入を示しなさい。なお、当社は米国のLA社からのみ商品を購入し、国内の得意先へ掛けで販売している。また、会計期間はX7年1月1日からX7年12月31日までの1年間である。ただし、相手勘定科目は、次の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

ア. 当座預金    イ. 商品    ウ. 買掛金    エ. 売上原価  
オ. 棚卸減耗損    カ. 為替差損益    キ. 諸口

### 〈注意事項〉

1. 当社は、商品売買に関しては、「販売のつど売上原価に振替える方法」により記帳している。
2. 棚卸資産の払出単価は移動平均法により計算すること。
3. 決算にあたり、各勘定を締切るさいは英米式決算法にもとづいて行うこと。

### 〈資料Ⅰ〉商品売買取引に関する資料

- 1月1日 前期から繰越された商品は3,000個 (@¥2,100)、買掛金は20,000ドル (前期末の為替相場 1ドル=¥106) である。
- 2月1日 商品5,000個を@20ドルで仕入れ、代金は掛けとした (仕入時の為替相場 1ドル=¥107)。
- 2月15日 得意先に商品1,500個を@¥3,500で販売した。
- 2月28日 期首の買掛金を当座預金から全額支払った (支払時の為替相場 1ドル=¥108)。
- 3月1日 2月1日に生じた買掛金全額について円貨による支払額を固定するため、取引銀行との間で1ドル=¥106で為替予約を締結した。なお、振当処理を行うこととし、為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として処理する。
- 4月15日 得意先に商品2,500個を@¥3,500で販売した。
- 4月30日 2月1日に計上した買掛金を当座預金から全額支払った (支払時の為替相場 1ドル=¥110)。
- 6月1日 得意先に商品2,000個を@¥3,500で販売した。
- 9月1日 手付金として35,000ドルを当座預金から支払った (支払時の為替相場 1ドル=¥112)。
- 10月15日 商品5,000個を@19ドルで仕入れ、35,000ドルについては手付金で充当し、残額は掛けとした (仕入時の為替相場は1ドル=¥110)。
- 11月1日 得意先に商品2,500個を@¥3,450で販売した。
- 12月1日 得意先に商品2,000個を@¥3,450で販売した。

### 〈資料Ⅱ〉決算整理に関する資料

1. 商品の実地棚卸数量 2,400個
2. 決算時の為替相場 1ドル=¥113

第3問 (20点)

以下の〔資料Ⅰ〕、〔資料Ⅱ〕および〔資料Ⅲ〕にもとづいて、損益計算書を作成しなさい。なお、会計期間は1年、決算日は3月31日までの1年間である

〔資料Ⅰ〕 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

X6年3月31日 (単位:円)

借方	勘定科目	貸方
960,000	現金預金	
325,000	受取手形	
315,000	売掛金	
383,000	売買目的有価証券	
280,000	繰越商品	
2,700,000	建物	
600,000	備品	
940,000	満期保有目的債券	
	支払手形	184,000
	買掛金	167,750
	借入金	1,000,000
	貸倒引当金	25,000
	建物減価償却累計額	1,080,000
	備品減価償却累計額	216,000
	資本金	3,000,000
	利益準備金	84,000
	繰越利益剰余金	125,000
	売上	4,800,000
	有価証券利息	20,000
2,840,000	仕入	
960,000	給料	
360,000	保険料	
38,750	支払利息	
10,701,750		10,701,750

〔資料Ⅱ〕 未処理事項

決算にさいして調査を行ったところ、次の未処理事項が判明した。

1. 保有している株式の配当金領収証¥123,000が金庫に保管されていたが未処理であった。
2. 売掛金のうち¥20,000は得意先が倒産したため回収不能となっていたが未処理であった。その内訳は前期発生分が¥15,000、当期発生分が¥5,000である。
3. 仕入先に対する買掛金¥50,000について¥1,000の仕入割引の適用を受け、残額は小切手を振出して支払っていたが未処理である。

〔資料Ⅲ〕 決算整理事項

1. 売上債権の期末残高に対して2% (実績率) の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。
2. 商品の期末棚卸高は次のとおりである。なお、棚卸減耗損は独立科目とし、収益性の低下による評価損は売上原価の内訳科目として処理する。

帳簿棚卸数量	2,000個、原価 @ ¥120		
実地棚卸数量	<table> <tr> <td>1,350個、正味売却価額 @ ¥110</td> </tr> <tr> <td>530個、正味売却価額 @ ¥130</td> </tr> </table>	1,350個、正味売却価額 @ ¥110	530個、正味売却価額 @ ¥130
1,350個、正味売却価額 @ ¥110			
530個、正味売却価額 @ ¥130			

3. 有価証券の内訳は次のとおりである。

	保有目的	帳簿価額	時価
甲社株式	売買目的	¥200,000	¥180,000
乙社社債	売買目的	¥183,000	¥190,000
丙社社債	満期保有目的	¥940,000	¥945,000

売買目的有価証券の評価は時価法とする。また、丙社社債は当期首に丙社が発行したと同時に取得したものであり、償却原価法 (定額法) により評価すること (額面総額¥1,000,000、償還期間5年、年利率2%、利払日は3月末の年1回)。

4. 建物および備品の減価償却は次のとおりである。  
 建物：定額法、耐用年数30年、残存価額ゼロ  
 備品：定率法、償却率年20%、残存価額ゼロ
5. 保険料は、毎年同額を8月1日に向こう1年分を支払っている。
6. 借入金に対して¥11,250の利息を未払利息として計上する。
7. 法人税、住民税及び事業税を税引前当期純利益の30%計上する。

# 工業簿記

## 第4問 (28点)

### (1) (12点)

次の一連の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。仕訳の金額はすべて円単位とする。

1. 材料 3,600 kg を 1 kg あたり 602 円で購入し、代金は掛とした。なお、材料の月初棚卸高は 400 kg、1 kg あたり 592 円であった。

ア. 製品イ. 仕掛品ウ. 材料エ. 買掛金  
オ. 売上原価カ. 製造間接費キ. 材料消費価格差異

2. 当月において、材料 3,700 kg を消費した。なお、3,300 kg については特定の製造指図書への出庫である。また、材料費の計算については、年間を通じて 600 円/kg の予定消費価格を用いている。

ア. 製品イ. 仕掛品ウ. 材料エ. 買掛金  
オ. 売上原価カ. 製造間接費キ. 材料消費価格差異

3. 当月の材料消費価格差異を計上する。なお、材料の実際消費価格の計算は平均法を用いており、棚卸減耗は生じていない。

ア. 製品イ. 仕掛品ウ. 材料エ. 買掛金  
オ. 売上原価カ. 製造間接費キ. 材料消費価格差異

### (2) (16点)

当工場では、全部実際単純個別原価計算を行っている。下記の資料にもとづき、6 月における仕掛品勘定と製品勘定を完成しなさい。なお、仕訳と元帳への転記は月末にまとめて行っているものとする。

#### 1. 原価計算表の要約

製造指図書番号	日付	直接材料費	直接作業時間	機械作業時間	備考
No. 0503	5/15~5/26	240,000 円	230 時間	300 時間	5/15 製造着手 5/26 完成 6/2 引渡
No. 0504	5/27~5/31 6/1~6/8	300,000 円 — 円	110 時間 150 時間	50 時間 190 時間	5/27 製造着手 6/8 完成 6/12 引渡
No. 0601	6/9~6/26	684,800 円	420 時間	500 時間	6/9 製造着手 6/26 完成 6/30 引渡
No. 0602	6/27~6/30	377,200 円	80 時間	50 時間	6/27 製造着手 6/30 未完成

2. 直接工の消費賃率は 1 直接作業時間あたり 1,200 円であった。

3. 当月の製造間接費実際発生額は 1,486,000 円、公式法変動予算による月間の固定費予算額は 900,000 円、月間基準操業度は 750 機械作業時間であり、予定配賦率は 1 機械作業時間あたり 2,000 円であった。

## 第5問 (12点)

大原フーズは、袋詰めカット野菜の製造販売を行っている。現在、7月の利益計画時の資料をもとに8月の利益計画を策定中である。次の資料にもとづいて下記の問いに答えなさい。

[7月の利益計画時の資料]

1. 売上高 4,000,000円
2. 原価内訳

材 料 費	1,240,000円 (変動費)
パート・アルバイト給料	505,000円 (変動費)
水道光熱費	147,000円 (変動費 55,000円、固定費 92,000円)
正社員給料	909,000円 (固定費)
支払家賃	430,000円 (固定費)
設備減価償却費	320,000円 (固定費)
その他費用	229,000円 (固定費)

問1 7月の変動費率を計算しなさい。

問2 8月の損益分岐点売上高を計算しなさい。なお、変動費率および固定費額は7月と同じ条件であるものとする(問3も同様)。

問3 8月の目標営業利益は275,000円である。この目標を達成するために必要な売上高を計算しなさい。

簿記検定試験答案用紙

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

採点欄	
一問	

2 級 ①

商業簿記

第1問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

受験番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

資格の大原 簿記講座

簿記検定試験答案用紙

2 級 ②

商業簿記

採点欄

二問

第2問 (20点)

買 掛 金

年 月 日			摘 要	借 方	年 月 日			摘 要	貸 方
x7	2	28	( )	( )	x7	1	1	前 期 繰 越	( )
	3	1	( )	( )		2	1	( )	( )
	4	30	( )	( )		10	15	( )	( )
	12	31	次 期 繰 越	( )		12	31	( )	( )
				( )					( )

商 品

年 月 日			摘 要	借 方	年 月 日			摘 要	貸 方
x7	1	1	前 期 繰 越	( )	x7	2	15	( )	( )
	2	1	( )	( )		4	15	( )	( )
	10	15	( )	( )		6	1	( )	( )
						11	1	( )	( )
						12	1	( )	( )
						12	31	( )	( )
						12	31	次 期 繰 越	( )
				( )					( )

為 替 差 損 益

年 月 日			摘 要	借 方	年 月 日			摘 要	貸 方
x7	2	28	( )	( )	x7	3	1	( )	( )
	12	31	( )	( )		12	31	損 益	( )
				( )					( )



受験番号 \_\_\_\_\_  
 氏 名 \_\_\_\_\_  
 生年月日 \_\_\_\_\_

資格の大原 簿記講座

簿記検定試験答案用紙

2 級 ③

商業簿記

採点欄	
三問	

第3問 (20点)

損益計算書

自X5年4月1日 至X6年3月31日

(単位:円)

I 売上高		4,800,000
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高	( )	
2 当期商品仕入高	( )	
合計	( )	
3 期末商品棚卸高	( )	
差引	( )	
4 ( )	( )	( )
売上総利益		( )
III 販売費及び一般管理費		
1 給料	960,000	
2 保険料	( )	
3 ( )	( )	
4 貸倒引当金繰入	( )	
5 減価償却費	( )	
6 棚卸減耗損	( )	( )
営業利益		( )
IV 営業外収益		
1 有価証券利息	( )	
2 受取配当金	( )	
3 ( )	( )	( )
V 営業外費用		
1 支払利息	( )	
2 ( )	( )	( )
税引前当期純利益		( )
法人税、住民税及び事業税		( )
当期純利益		( )

受験番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

資格の大原 簿記講座

簿記検定試験答案用紙

2 級 ④

工業簿記

採点欄

四問

五問

第4問 (28点)

(1)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				

(2)

仕 掛 品		(単位：円)	
前月繰越	( )	製品	( )
材料	( )	次月繰越	( )
賃金給料	( )		
製造間接費	( )		
	<u>( )</u>		<u>( )</u>

製 品		(単位：円)	
前月繰越	( )	売上原価	( )
仕掛品	( )		
	<u>( )</u>		<u>( )</u>

第5問 (12点)

問1 変動費率

	%
--	---

問2 損益分岐点売上高

	円
--	---

問3 目標達成のための売上高

	円
--	---

## ネット試験模擬問題 模範解答

(禁無断転載)

## 第1問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	エ	1,785,000	イ	1,725,000
			キ	60,000
2	イ	598,800	ア	601,896
	カ	3,096		
3	カ	1,800,000	ア	1,800,000
4	エ	2,000,000	ア	2,000,000
	キ	2,000,000	ウ	2,000,000
5	イ	8,000,000	エ	8,000,000
	キ	3,000,000	イ	3,000,000

仕訳1つにつき4点。合計20点。

第2問 (20点)

買 掛 金

年 月 日			摘 要	借 方	年 月 日			摘 要	貸 方
x7	2	28	( ア )	( 2,120,000 )	x7	1	1	前 期 繰 越	( 2,120,000 )
	3	1	( カ )	( 100,000 )		2	1	( イ )	( 10,700,000 )
	4	30	( ア )	( ② 10,600,000 )		10	15	( イ )	( ② 6,600,000 )
	12	31	次 期 繰 越	( 6,780,000 )		12	31	( カ )	( ② 180,000 )
				( 19,600,000 )					( 19,600,000 )

商 品

年 月 日			摘 要	借 方	年 月 日			摘 要	貸 方	
x7	1	1	前 期 繰 越	( 6,300,000 )	x7	2	15	( エ )	( 3,187,500 )	
	2	1	( ウ )	( ② 10,700,000 )		4	15	( エ )	( ② 5,312,500 )	
	10	15	( キ )	( ② 10,520,000 )		6	1	( エ )	( 4,250,000 )	
/							11	1	( エ )	( ② 5,275,000 )
							12	1	( エ )	( 4,220,000 )
							12	31	( オ )	( ② 211,000 )
							12	31	次 期 繰 越	( 5,064,000 )
				( 27,520,000 )					( 27,520,000 )	

為 替 差 損 益

年 月 日			摘 要	借 方	年 月 日			摘 要	貸 方
x7	2	28	( ア )	( ② 40,000 )	x7	3	1	( ウ )	( ② 100,000 )
	12	31	( ウ )	( 180,000 )		12	31	損 益	( 120,000 )
				( 220,000 )					( 220,000 )

②×10箇所。合計20点。

第3問 (20点)

損益計算書

自X5年4月1日 至X6年3月31日

(単位：円)

I 売上高		4,800,000	
II 売上原価			
1 期首商品棚卸高	( 280,000 )		
2 当期商品仕入高	( 2,840,000 )		
合計	( 3,120,000 )		
3 期末商品棚卸高	( 240,000 )		
差引	( 2,880,000 )		
4 (商品評価損)	( ② 13,500 )	( 2,893,500 )	
売上総利益		( 1,906,500 )	
III 販売費及び一般管理費			
1 給料	960,000		
2 保険料	( ② 270,000 )		
3 (貸倒損失)	( ② 5,000 )		
4 貸倒引当金繰入	( ② 2,400 )		
5 減価償却費	( ② 166,800 )		
6 棚卸減耗損	( ② 14,400 )	( 1,418,600 )	
営業利益		( 487,900 )	
IV 営業外収益			
1 有価証券利息	( ② 32,000 )		
2 受取配当金	( 123,000 )		
3 (仕入割引)	( ② 1,000 )	( 156,000 )	
V 営業外費用			
1 支払利息	( ② 50,000 )		
2 (有価証券評価損)	( ② 13,000 )	( 63,000 )	
税引前当期純利益		( 580,900 )	
法人税、住民税及び事業税		( 174,270 )	
当期純利益		( 406,630 )	

②×10箇所。合計20点。

第4問 (28点)

(1)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	ウ	2,167,200	エ	2,167,200
2	イ カ	1,980,000 240,000	ウ	2,220,000
3	キ	3,700	ウ	3,700

仕訳1つにつき4点。合計12点。

(2)

仕掛品		品		(単位:円)
前月繰越	( ② 532,000 )	製品	( ② 3,280,800 )	
材料	( ② 1,062,000 )	次月繰越	( ② 573,200 )	
賃金給料	( ② 780,000 )			
製造間接費	( ② 1,480,000 )			
	<u>( 3,854,000 )</u>			
				<u>( 3,854,000 )</u>

  

製		品		(単位:円)
前月繰越	( ② 1,116,000 )	売上原価	( ② 4,396,800 )	
仕掛品	( 3,280,800 )			
	<u>( 4,396,800 )</u>			
				<u>( 4,396,800 )</u>

②×8箇所。合計16点。

第5問 (12点)

問1 変動費率

④ 45 %

問2 損益分岐点売上高

④ 3,600,000 円

問3 目標達成のための売上高

④ 4,100,000 円

④×3箇所。合計12点。